

きつね稚児にどうぞ

私、俊徳丸のお寺では、境内にお祀りするお稲荷さんの大祭「きつね稚児」の行事を毎年5月に行っています。小さな子供たちが稚児衣装



を着て、更に髷などのきつねのメイクをしてもらい、きつねのお面を頭

にのせ、お尻にはしっぽをつけ、お稲荷さんのけんぞく眷属(お使い)である「白ぎつね」に扮しお練りをします。それはそれはかわいらしくて、どんな人でも微笑んでしまいます。

「稚児」と言えば、京都の夏の風物詩「祇園祭り」で巡行される「なぎなたほこ薙刀鉾」にのっている子供を毎年テレビのニュースで目にします。おめでたい神事や佛事の行事に登場します。

遙か昔のおはなしです。人々の命を守る大きな施設や信仰の場を建設する際に、若い娘を「人柱」に生き埋めにしたそうです。私のお寺の前は木曾川の堤防があります。現在は堤防道路として人や自動車が往来していますが、その堤防道路へ上り下りする坂に女性の名前が付けられています。私のお寺の1キロほど東には、「おふじの坂」とよばれている所があります。「ふじ」という名の娘さんを人柱にしたという伝説を幼少のころ祖母から聞きました。その坂の上りきった所には小さなお社の神社あり、現在も近所の方々がお世話をしておられます。後

に、人柱の犠牲の代わりに子供の「魂」を借りたのが稚児の始まりとされています。ですから、本来「稚児行列」は「きらち新地」に神社仏閣が完成されたときのみに登場したそうです。逆に見れば、幼子の「魂」はそれくらい清らかで貴重なもので、稚児が地域をお練りする意味は、親はもちろんの事、子供は社会の大人皆で大切に育てていかなければならないということをも新たに認識させてくれるものです。

現在も寺院では、遠忌法要、本堂庫裡の落慶法要、住職晋山式で稚児が募集され出ますが、主催する我々はそこまで「稚児」の意味を深く理解し認識して行っているのか考えさせられるところです。何か行事の「賑やかし」のためだけの稚児行列が多い気がします。



また、左写真のように、「きつねの嫁入り行道」もあります。当町

内会の「訶梨帝母」さんは何年か前に花嫁を勤められ、御利益をありがたく頂かれ、ご自身が思い描いておられた人生より遙か遙か「賑やかな」日々を送られているようです。俊徳丸

「きつね稚児」のお問い合わせは…

岐阜県羽島郡笠松町円城寺 594 番地

マリア観音の寺 せんようじ 専養寺

☎(058)387-3906

日時 平成 28 年5月8日(日)

午前 10 時から 11 時 30 分